

ト ラ ッ ク summer ED

*本編のその後、主人公が同居を許可した未来です。
ヒロインも社会人になり、話し方も変わつて落ち着いた様子です。

「おかえりなさい、

今日はいつもより早かつたですね」

「あつ荷物は持ちますよ
仕事帰りなんですから家でぐらいくつろいでくださいな」

「でもそうですね…

あと2時間は帰つてこないものと思つていたのでご飯の支度はまだ・・・」

「外食とかでもいいんですが、どうされます?
簡単なものでしたらご用意しますけど」

「はい、話…ですか?

いいんですけど、ご飯はどうします?

そうですか、わかりました」

「では少しお待ちくださいね、まだ少しやることがあります
丈夫です、10分もあれば終わりますから」

「わっ(きやっ)、どつどつしたんです!?
急に手なんて握つて」

「わっわかりました、そんなにも大事な話なんですね! (赤面しながらがら)』

「わかりましたからそろそろ手を離してください、
その…家でもさすがに恥ずかしいです』

「それで、どうしたんです?
急に改まつて

まさか転勤とかですか?」

「ああ、仕事関連じゃないんですね
では一体どういった内容で」

「はい、それは紙?
婚姻…届け?」

「兄さん!ついに結婚されるのですね!
でも交際相手がいると知りませんでした」

「そこらへんの話を詳しくお聞きしたいですね」

「兄さん?そんな顔されてどうしたんですか
それに違うってなにが…？」

「それって、指輪…ですか?
どうして今私にそれを?」

「あっ、それが彼女さんに渡すもので
女性である私に意見を求めてるんですね（焦りながら）」

「はつ、はい!

「えつ・・・う、うそ!? 本当に、私でよろしいんですか…?」

「夢じや、ないんですよね?
でつでも、本当に私でつ（ここで主人公に抱きつかれる）」

「はいっ・・・はいっ！」

（号泣）

「すみません、あまりにも嬉しかったためお見苦しいところを…」

「はい、もちろん
喜んでお受けいたします」

「ありがとう
大好きだよ、
お兄ちゃん！」